

## 第 620 回 新潟放送番組審議会 議事録

### — 議題 —

テレビ番組  
「花火のまち長岡 ふるさと宝めぐり」



平成 28 年 9 月 27 日

**BSN新潟放送**

## 第 620 回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成 28 年 9 月 27 日 (火) 午前 11:00~

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 本社 6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	相 羽 利 子	副委員長	古 賀 豊
委 員	正 道 かほる	委 員	佐 藤 元
委 員	小 島 良 子	委 員	細 田 康
委 員	高 木 言 芳	委 員	池 田 幸 博
委 員	服 部 誠 司		

○委員側欠席者

委 員 佐々木 広 介

○放送事業者側出席者

社 長	竹 石 松 次	営業局長	斎 藤 和 利
編成局長	島 田 好 久	報制局長	太 田 志 信
ラジオ本部長	高 坂 元 己		

<説明員> 報道制作局情報センター プロデューサー 山 口 牧 恵

事務局出席者

事務局長 増 山 由美子 (広報部長)  
事務局員 丹 羽 崇 (社長室長)

4. 議 題

1 報告事項

・10 月の新番組・単発番組について (各局長)

2 審議番組 テレビ番組

・「花火のまち長岡 ふるさと宝めぐり」

(2016 年 8 月 26 日 (金) 10 時~10 時 55 分 B S N 放送

8 月 28 日 (日) 12 時~12 時 55 分 B S—T B S 放送)

## 5. 議事の概要

各局長からの10月度番組報告に続いて、「花火のまち長岡 ふるさと宝めぐり」について審議が行われた。

### ～番組審議委員の主な意見・質問～

- いくつもの観光地を紹介していて、総花的な内容。数が多くてポイントが絞り切れず、全体的に平板な感じがした。出演者の久住小春さんは笑顔が可愛く、そつのない案内だったが、どの場面でも同じような感動表現で少し残念。場面場面のお話が飛び飛びで芯になるものがなかった。もう少し場所を絞って順番に紹介するなど工夫がほしかった。牛の角突きの場面でこれからいざ勝負という時にCMが入ったが、別のタイミングが良かったのではないか。タイトルに花火のまち、とあるが、その割に花火のシーンが少なかった気がする。
- 肩がこらすに見ることができる旅行の雑誌のような番組。全国の人に見せてもメジャーな観光地とグルメをライトな形で情報発信していると考えれば理解できる。久住さんは素直すぎてつかみどころがない印象。
- B S - T B Sでの放送は、B S Nも加盟しているJ N N系列のふるさと紀行の一環であり、新潟県民向けというより全国向けの番組内容と感じた。知的好奇心をくすぐる点がもっとあれば、より面白かったと思う。夏場の取材を8月下旬に放送しているが、見ている人に一年後、取材地を訪れてほしいという狙いになり、このタイミングでの放送が適切だったのか。
- 肩の力を抜いて見ることができる娯楽番組。紹介されたのは新潟県内の人たちにとって概ね知られた場所だが、番組を通じて地域の資源が宝物であると地元の人が改めて気づき、誇りをもつことで県外に発信する、まさに地域おこしの原点であるとも考えられる。総花的という指摘もあるが、長岡花火は知っていても、錦鯉や牛の角突きを知らない県外の人にとって新潟の入門編という意味はあったと思う。また、中越地震の被災地を取材先に組み込んだのは大事なことで、その扱いも重くなりすぎず上手に紹介していた。久住さんのコメントは言い足りない部分もあったが、自分の言葉で表現しているように感じた。率直で親近感があり成功だったと思う。今後も新潟の認知度を向上させるようこうした番組をどんどん発信してほしい。
- 番組を通じて新潟の観光地に興味をもってもらえれば良いと思う。単なる観光グルメ番組ではなく「物語」を説明する姿勢を感じた。映像も綺麗で、関西圏でも放送してほしい。また、キャリア教育という観点でみると山古志の親子や中山間地の家族の姿が子ども達に伝わることの重要性を感じる。

- 県外で長岡のイメージといえば花火だが、観光誘客の観点で考えれば花火大会が終わった後に放送してもあまり意味がないのではないか。また、山古志など震災復興というキーワードも含まれていたが、中越地震の後、県外各地で大きな震災が発生していることを考えると、県内の被災地を発信する意味が薄れているように思える。
- 番組を見ている途中、1つ1つの場所をもっと深く知りたいと思ったが、最終的にはシンプルな旅番組だと感じた。番組の趣旨とはかけ離れているが中山間地の農家に後継者がいない現実なども伝われば良いと思った。また、中越地震で被災した市民の苦悩や努力がもっと知りたい。それがあつてこそ今の山古志があると思う。さらに長岡以外の地域についても知りたくなった。ぜひ今後もふるさと宝めぐりをしてほしい。
- 1つの事象に偏ることなくバランスがとれた内容だったが、観光案内として見ると必要な情報が欠けていて、物足りなかった。また、もっと良い時期に放送すべきだったのではないか。
- 今までの観光番組は新潟市中心のものが多いと感じていたので、長岡地域をピックアップしたことは非常に良かった。県外から来た人に県内の観光地を問われると正直とまどう。今後、上越地域も掘り起こしてもらえると嬉しい。長岡でナスの生産量が多いなど知らないことがたくさんあった。番組を見て地元に自信を持つ若い人が増えて、地元に定着する1つのきっかけになれば良いと思う。

～報道制作局情報センター・山口プロデューサーから～

- 貴重なご意見、ありがとうございました。全国の人たちが見ても、旅をしたつもりで楽しめるように心がけた。放送時期が長岡花火終了後となつたため、花火以外の場所を訪れるができるようなるべく多くの観光地を取り上げたかった。その反面、総花的にならないよう長岡市の寺泊・和島・山古志などに絞って紹介した。久住さんはB S Nのラジオで毎週、パーソナリティを担当しているが、テレビ番組での旅もののロケは初めてでインタビューに慣れていない点もあった。番組はオリンピックの開催と重なり、良いタイミングでの放送が難しかった。牛の角突きでいざこれからという時、CMを入れたが、制作サイドとしてはCM後も見続けてもらいたいという狙いがあった。番組内で紹介した場所がどこにあるのか分かりにくかったというご指摘については、これから番組作りで十分注意したい。